

(9) 中国



中国地域では、景気は一部に弱さがみられるものの、緩やかな回復基調が続いている。

- ・ 鉱工業生産は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きが続いているものの、足踏みがみられる。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)

前回調査からの主要変更点

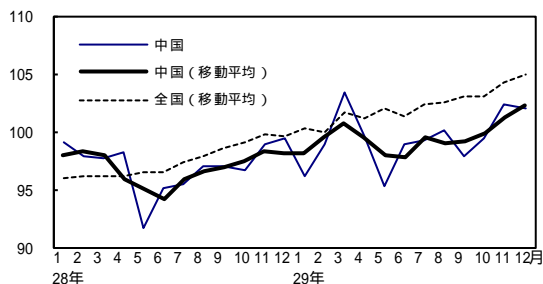
	今回(平成29年11月)	今回(平成30年2月)	
住宅建設	減少	増加	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は持ち直しの動きがみられる。

10 - 12 月期には、輸送機械は、普通乗用車等の生産増から増加した。化学は、フル生産を継続し、医薬品等の生産増から増加した。はん用・生産用・業務用機械は、ショベル系掘削機械等の生産減から減少した。鉄鋼は、一部事業所の設備工事による生産減から回復し増加した。電子部品・デバイス、光電変換素子等の生産増から増加した。

鉱工業生産指数



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比)
(%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		7 - 9 月期	10 - 12 月期	10月	11月	12月
輸送機械	23.5	0.1	0.3	0.2	3.7	0.1
化学	16.4	2.1	9.6	8.6	0.0	2.7
はん用・生産用・業務用機械	11.2	3.1	0.9	2.9	13.1	10.4
鉄鋼	7.7	0.9	3.2	0.5	0.2	3.5
電子部品・デバイス	7.1	2.6	4.9	3.2	8.7	5.4
鉱工業	100.0	1.1	2.2	1.6	2.9	0.3

(備考) 1. 22年 = 100、季節調整値。最新月は速報値。
2. 全国及び中国の太線は中心3か月移動平均。
直近月は2か月平均。

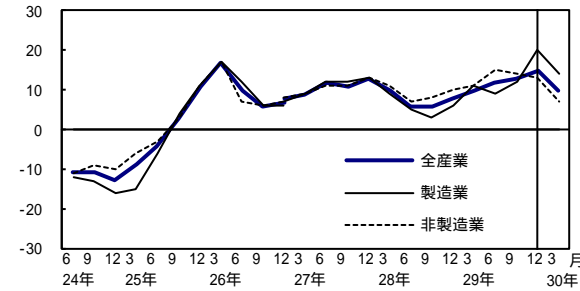
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。
2. 10 - 12 月期、12 月は速報値。

(9) 中国

(2) 日銀短観における業況判断は「良い」超幅が、資金繰り判断は「楽である」超幅がそれぞれ拡大している。

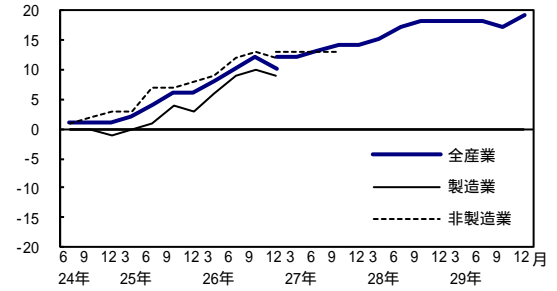
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査

(%ポイント) 企業短期経済観測 [業況判断]



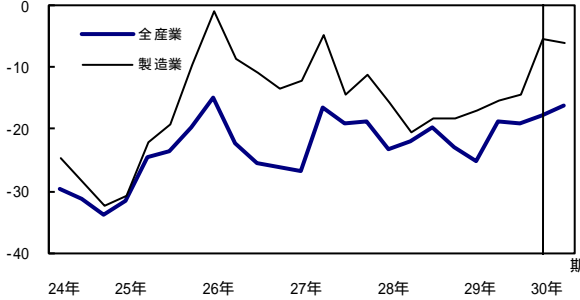
(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。30年3月は予測。
26年12月は新・旧基準を併記。

(%ポイント) 企業短期経済観測 [資金繰り判断]



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
26年12月は新・旧基準を併記。

(%) 中小企業景況調査 [業況判断]



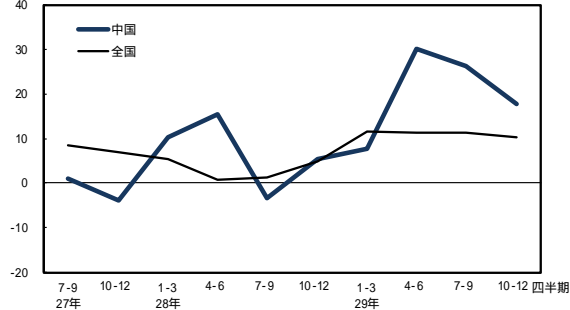
(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。30年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(1月調査結果)[企業動向関連(現状)]

「アジア向け半導体や鉄鋼の輸出額が増加している(金融業)」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は前年に比べて大幅に増加している。

(%) 民間非居住用建設工事費(前年同期比)の推移



(備考)29年4-6月期以降は国土交通省「建設統計月報」
の非居住用建築物工事費予定額を平均工期9.8か月
で進捗展し、その伸び率を基に実績額を延伸。

企業短期経済観測調査 [設備投資(12月調査)]

	(前年度比、%)	
	28年度実績	29年度計画
全産業	4.7	20.2 (9.4)
製造業	14.8	18.0 (2.4)
非製造業	8.0	23.7 (33.8)

(備考)()は前回(9月)調査比修正率。

2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直しの動きが続いているものの、足踏みがみられる。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

10月は前月比0.5%増、11月は同0.9%増、12月は同0.6%減となった。

百貨店・スーパー販売額

百貨店は、10月は、客数が減少し、飲食料品を中心に苦戦をし、前年を下回った。11月は、衣料品の下げ幅が小さくなり、化粧品、高級時計、家庭用品なども好調で、前年を上回った。

12月は、歳暮などの不振により飲食料品が伸び悩み、家庭用品や家具なども低調で、前年を下回った。

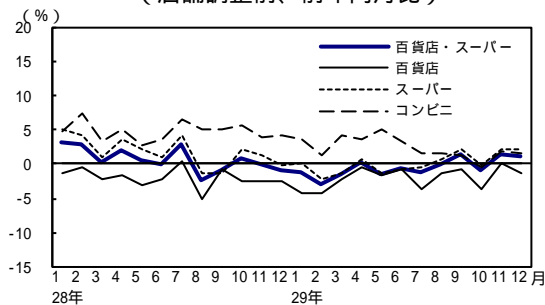
スーパーは、10-12月期は、飲食料品や化粧品が良い動きであったことなどから全体としては前年を上回った。

景気ウォッチャー調査 (1月調査結果) [家計動向関連 (現状)]

「1月は客足が鈍くなるが、客の節約志向が高まって今年は特に顕著である (美容室)」など

「やや悪くなっている」とする回答が増加した。

百貨店・スーパー販売額等
(店舗調整前、前年同月比)



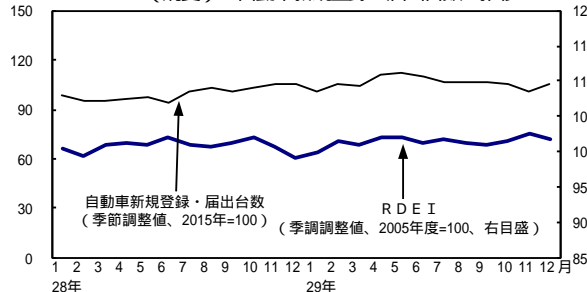
	29年10-12月	29年10月	11月	12月
RDEI (消費*1)	0.7	0.5	0.9	0.6
百貨店・スーパー(*2)	0.6	1.0	1.5	1.2
百貨店(*2)	1.5	3.6	0.1	1.3
スーパー(*2)	1.5	0.0	2.1	2.3
コンビニ(*2)	1.0	0.5	1.9	1.6
乗用車(*3)	1.2	3.0	4.6	1.5
(季節調整値)(*3)	2.4	1.0	3.7	3.9

考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))

RDEI (消費)と自動車新規登録・届出台数の推移

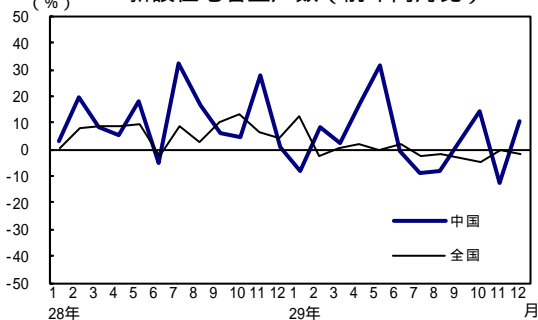


(2) 住宅建設は前年に比べて増加している。

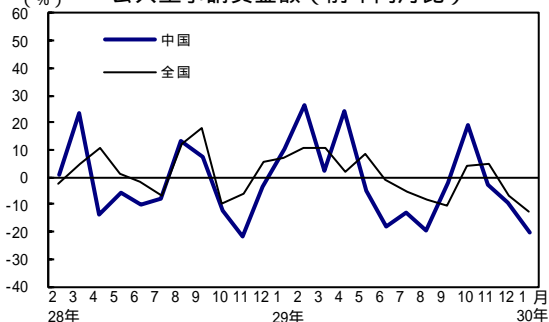
貸家、分譲が前年を上回ったことから、全体では増加している。

(3) 公共投資は29年度累計で見るとほぼ同水準となっている。

新設住宅着工戸数 (前年同月比)



公共工事請負金額 (前年同月比)

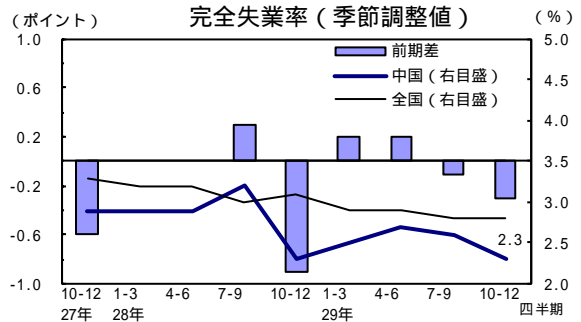
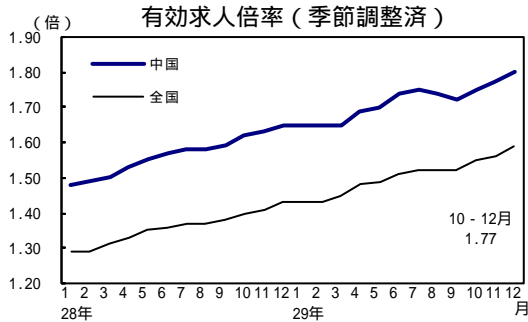


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前期を下回っている。



(備考) 内閣府にて季節調整をおこなったが、季節性が認められなかったことから、原数値と同じ。

景気ウォッチャー調査 (1月調査結果)[雇用関連(現状)]

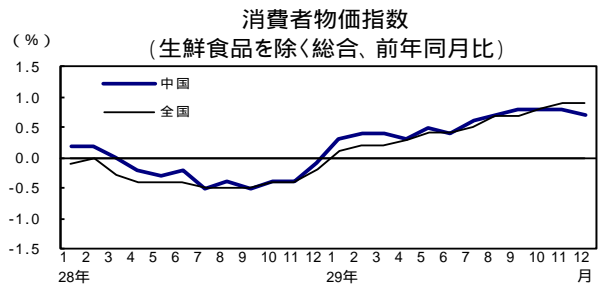
「景気は堅調に推移し、企業の採用意欲は依然として高止まりしている。求職者確保の競争はますます激化しており、十分な母集団の確保に至っていない(人材派遣会社)」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は前年に比べて件数は増加しているものの、負債総額は減少している。

(3) 消費者物価指数は前年比の上昇幅がおおむね横ばいとなっている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	29年 1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	30年1月
倒産件数	93	80	66	92	21
(前年比)	2.2	11.1	29.0	24.3	36.4
負債総額	567	85	135	323	26
(前年比)	267.9	41.2	10.7	43.8	93.9



景気ウォッチャー調査 (1月調査結果)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

・天候不順で野菜の値段が高騰しているの、飲食店関係は材料費の上昇に悩まされている。特に、野菜を多く使う飲食店の利幅が低下している(会計事務所)

<先行き>

・気温の上昇とともに客が外出する機会が増え、消費税率引上げの話題も活発になってマイホーム建築に動き出す(住宅販売会社)

景気ウォッチャー調査 (季節調整値)

